

瀬戸内国際芸術祭における恒久作品の変化と展示場所に関する研究 他の都市型・地域型芸術祭との比較を通じて

A Study of Changes in Permanent Artworks and Exhibition Locations at the Setouchi International Art Festival Through comparison with other urban and regional art festivals

鈴木嶺太¹, 大川碧望², 佐藤慎也²
Ryota Suzuki¹, *Aono Okawa¹, Shinya Satoh²

This research investigates the characteristics of regional and urban art festivals by comparing the Setouchi International Art Festival, Yokohama Triennale, and the Northern Alps International Art Festival. Focusing on permanent and temporary artworks, it examines how these installations shape the identity of the host locations. The study also explores differences in the modes of transportation and the spatial distribution of works, revealing how these factors influence the viewer's experience. By analyzing changes in the number and type of exhibited works, the research aims to provide insights into the broader impact of art festivals on local revitalization and cultural development.

1. 研究背景・目的

美術館はかつて貴族や富裕層のコレクションを保管する場として始まったが、次第に一般に公開されるようになり、作品がより見やすく鑑賞できる展示空間がつくられるようになった。しかし、時代の変遷とともに作品は展示空間の枠を超え、屋外へと飛び出し、自然環境や地域社会との関わりを持つようになり、この流れの中で芸術祭という形態が発展した。芸術祭は、単なる展示や保管を目的とするのではなく、作品の制作過程を公開したり、地域住民との交流や共同作業を重視するなど、より社会的で動的な要素を含むことが特徴となっている。

瀬戸内国際芸術祭(瀬戸芸)は、2010年から始まり、瀬戸内海の島々を舞台に3年ごとに開催される地域型の芸術祭である。この芸術祭は、過疎化や高齢化が進む瀬戸内の島々に、文化や観光を通じて活気を取り戻すことを目的としている。その特徴の一つとして、観賞者が船で島々をめぐる移動形式にあり、港が自然と拠点となる点が挙げられる。このような瀬戸芸の特徴はほかの都市型芸術祭や地域型芸術祭と異なることから、芸術祭の拠点となる場所の作品や作品形態について、芸術祭期間の一時的に展示される作品と恒久的にある作品の比較を行う。恒久的な作品に焦点を当て、それらが島々のアイデンティティにどのように寄与しているのか、また、移動手段や作品の展示場所などの芸術祭を取り巻く要因がどのように影響しているのかを調査することで、芸術祭運営の一助となることを目的としている。

2. 研究方法

芸術祭の恒久作品数の調査を行う。本研究では瀬戸芸の中で直島と豊島に焦点を当て、比較対象として北アルプス芸術祭の作品数についても調査を行う。方法としてはホームページに掲載されている作品について、会期ごとに何作品が次の会期にも残り、新作がいくつあるかを調査し、その作品がどの場所にあるか展示場所についても考察を行う。また、その結果を他の芸術祭の特徴などから比較し考察を行い、地域型芸術祭の特徴を明らかにする。

3. ほかの芸術祭の特徴

横浜トリエンナーレは都市型芸術祭として、横浜を会場として開催される。2024年では横浜市内の3つの会場で展示が行われているが、その中心となるのは横浜美術館であり、メイン会場だけで時間を要し、観賞の体験も充実している。また、建物内での展示が中心であり、展示会場まで徒歩や電車での移動形式となっており、芸術祭を通じて街全体を巡るというよりは、美術館を巡るという印象が強い。そして、都市型芸術祭では、芸術祭のテーマが明確に出されており、鑑賞者がそのテーマについて深く考えるきっかけを与えている。

一方で、地域型芸術祭である北アルプス国際芸術祭では、信濃大町を中心に作品が点在しており、鑑賞者は車やアートバスで移動しながら、作品を鑑賞する形式となっている。しかし、アート作品が駐車場から離れている作品もあり、山を登りながら鑑賞するものもある。市街地のエリアでは作品が集中して配置されて

1: 日大理工・院(前)・建築、 2: 日大理工・教員・建築

おり車を止め歩いて観賞する。山や街を歩き観賞する形式により町の雰囲気を感じ取りやすく、地域への理解も深めることができる。北アルプス芸術祭では作品が広範囲に点在しているため、一日ですべての作品を回することは難しい。こうした点から、地域型芸術祭と都市型芸術祭では、作品の展示場所や移動形式が鑑賞者の体験に大きく影響を与えている。

4. 芸術祭の作品数の変化

表1 瀬戸内国際芸術祭の作品数の変化

瀬戸内国際芸術祭		2010 (第1回)	2013 (第2回)	2016 (第3回)	2019 (第4回)	2022 (第5回)
直島	作品数	16	19	24	23	24
	新作作品	16	8	12	4	3
	なくなった作品	-	-5	-7	-5	-2
豊島	作品数	18	17	18	17	12
	新作作品	18	7	6	4	3
	なくなった作品	-	-8	-5	-5	-8

瀬戸芸の作品は無くなってもいるが、新作作品も毎周期に制作され入れ替わりもされている。

表2 北アルプス芸術祭の作品数の変化

北アルプス芸術祭	2014	2017(第1回)	2021 (第2回)	2024 (第3回)
作品数	1	38	37	38
新作作品	-	37	31	31
なくなった作品	-	0	-32	-30

北アルプス芸術祭では2014年度は「信濃大町 2014～食とアートの廻廊～」にて制作された作品である。恒久的な作品は限られており、それ以外の作品は入れ替わっている。

5. 展示作品数の変化に対するまとめ

直島、豊島、北アルプス芸術祭の作品を比較すると、それぞれの島や地域における展示作品数やその変化に特徴が見られる。

直島では新作作品が少なく、恒久的な作品が多くを占めている。直島の芸術祭作品が家プロジェクトのような建築作品やフェリーターミナルといった作品が多いことが挙げられる。一方、豊島では全体の作品数は少なくなっているが、豊島美術館や島キッチンなど、恒久的な観光名所が存在し、芸術祭の期間外でも地域のアート体験をすることができる。これにより会期外にも多くの鑑賞者が訪れる。

これに対して、北アルプス国際芸術祭では、新作の割合が高く、鑑賞者が毎回新しい作品に出会える楽しみがある。しかし、恒久的な作品も少数残っており、地域の人から愛された作品となっている。

このように、地域ごとに展示作品数やその変化の違いがあり、それが鑑賞体験や地域の魅力に直接関わっていることがわかる。

6. まとめ

都市型と地域型の芸術祭を比較する中で、展示作品数や恒久作品の有無だけでなく、鑑賞者の移動形式とその体験の違いも重要な要素であることが明らかになった。横浜トリエンナーレのような都市型芸術祭では、鑑賞者は徒歩や公共交通機関を利用して美術館を巡り、毎回異なるテーマや企画展を通して、じっくりと展示に向き合う体験をするのが特徴である。街の雰囲気を感じるのではなく、作品や展示そのものに向き合うことが重要視されている。それに対して、瀬戸芸のような地域型芸術祭では、鑑賞者が島々を船で巡る移動形式が体験に深く影響を与え、自然や地域社会との結びつきの中でアートを体感することができる。特に瀬戸芸のように、恒久作品が地域に残り、観光地としての役割を果たしている例は、芸術祭が地域活性化にどのように貢献できるかを示している。また、直島や豊島における恒久作品の存在は、地域のアイデンティティ形成に寄与し、訪問客にとっては地域の魅力を再発見する場となっている。これに対し、北アルプス国際芸術祭のように、新作が多く移動しながら広範囲の自然とアートを楽しむ形式は、地域型芸術祭におけるもう一つの形態として特徴的である。街や山を歩き雰囲気を感じながらアートを鑑賞する体験は地域型芸術祭の特徴であり、地域活性の効果がある。

このように、各芸術祭はそれぞれの展示作品数の変化、移動形式、恒久作品の存在によって異なる体験を提供しており、その違いが鑑賞者や地域社会に与える影響を理解することは、芸術祭の意義や運営において重要である。

7. 参考文献

- [1] 瀬戸内国際芸術祭公式サイト
<https://setouchi-artfest.jp/>,
アクセス日：2024年9月14日
- [2] 柴田長義：『博物館・美術館の世界史 I』, 日本放送出版協会, pp.45-67, 2010年.
- [3] 瀬戸内国際芸術祭実行委員会編：『瀬戸内国際芸術祭 2022 ガイドブック』, pp.12-34, 2022年.
- [4] 北アルプス国際芸術祭 2024
<https://shinano-omachi.jp/>
アクセス日：2024年9月29日.
- [5] 横浜トリエンナーレ
<https://www.yokohamatriennale.jp/>
アクセス日：2024年9月14日.